

顕彰会便り

No.16

平成12年(2000)3月1日
編集・発行
津田左右吉博士顕彰会
美濃加茂市島町2-5-27
TEL 0574-28-8551

東京研修視察のあらまし

史実に基づいた日本の歴史学を築き、その研究に生涯没頭した故津田左右吉博士の遺品六十七点と草稿三百四十余点が、昨年十月、博士の故郷である美濃加茂市へ、武蔵野市吉祥寺在住の鈴木瑞枝先生から寄贈されたことは、私たちの記憶に新しい。このことは博士を称え、博士の生きざまに少しでも学ぼうとする



早稲田大学 津田左右吉記念室

る我々にとってどんなに嬉しいことであつたことか。

津田左右吉博士顕彰会では、寄贈していただいた鈴木先生に心からのお礼を申し上げることとし、代表者が東京へ出かけることとなつた。

鈴木先生のお宅へは大勢で押しかけても、という配慮もあり、佐合会長と事務局が一足先に先生のお宅へ直行した。

残る一行五人(大沢副会長、加木屋副会長、林下米田小学校長、文化部長、私)は、後から東京に向かった。

私たちは、津田左右吉博士の生家保存の資料となるものを探すと、もう一つの目的もあつて早稲田大学を訪問した。先行した二人とはここで合流した。嬉しいかつたことは鈴木瑞枝先生がわざわざ私たちのために来ていただいたことだつた。

同大学史資料センターの金子宏二事務長の案内で、津田左右吉博士記念室を拝見した。津田博士が読まれたという原語の図

書が所狭しと並ぶ。まず日に入つたのは、昭和二十四年十一月三日付けの文化勲章。「日本国天皇は津田左右吉に文化勲章を授與する」という重々しい額が掲げられ、笹村草家人作の「津田左右吉先生米寿像」の脇に燦然と輝く文化勲章があつた。その近くには、かつて右翼思想家の攻撃を受け、記紀研究の主要四著作が発禁となり、岩波茂雄氏とともに出版法違反で起訴されたときの上申書、その隣に発禁となつた著書「古事記及日本書紀の研究」が並び、志を貫徹した津田博士の偉大さを今更ながら感じた。また、会津八一、元早稲田大学教授が津田博士に自著を贈った時に添えた手紙が掲げられていた。この時の会津八一教授の著書「鹿鳴集」ほか三点は現在、下米田小学校に納められている。下米田小学校の児童が歌っている津田博士作詞「暮春」の作曲者東儀鉄笛氏の自筆の譜面もあつた。

津田左右吉博士顕彰会が作つている津田博士の像を刻んだ文鎮が展示物の中央に飾られて、わが顕彰会とこの記念室との繋



杉並区立郷土博物館(旧井口家住宅長屋門)

がりを深めていた。

わずかな時間だったが、津田博士の生きざまを垣間見るひとときではあつた。

杉並区立郷土博物館の見学は、津田博士の生家保存のために具体的な参考となつた。敷地内に長屋門と古民家が移築され、往時の姿が再現されていた。古民家の土で固めた籠、立ち白、自在かぎ、囲炉裏などは懐かしく、昔、このあたりは養蚕が盛んであつたそう、蚕具とともに機械や繭繰り機などが目に付いた。特に古民家については取り壊しから再建までつづきにビデオに収録し、公開してあつた。これは、これから私たちが行おうとする津田博士の生家再建に大い役立つであろう。また、同博物館では、この古民家をミニコンサートや落語の会場として利

用しているとのことだつた。これらは津田家再建後の利用についても参考となるものである。(顕彰会理事 田口博)

ありがとう!! 鈴木瑞枝先生

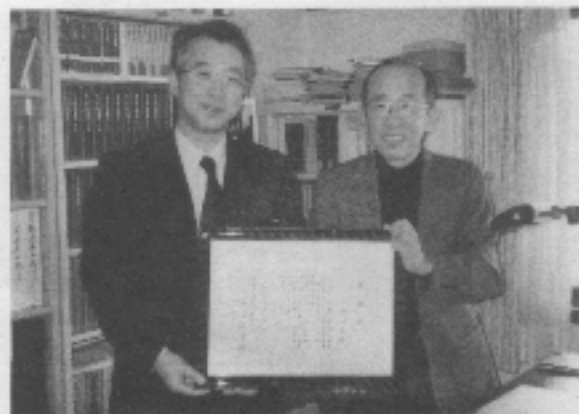
この度、鈴木先生が四二〇点にも及ぶ津田博士の遺品、草稿、東京専門学校(卒業)証書、旧制中学校教師の辞令、坪内逍遙、柳田国男、会津八一等の著名な人々のはがき等を御寄贈下さいました。

鈴木先生はさきにその著書「黄昏の人ー津田左右吉」を出版された直後、平成六年十二月に來市され、津田博士についての講演を市立図書館と下米田小学校でされました。

栗田直躬早大名普教授亡き後、津田博士を身近に知っておられる人は極く少数となり、津田博士のお孫さん同様に幼、少年期をすごされた鈴木先生には、博士への思いは格別なものがあつたと思ひます。

前書第一章 津田家と我が家に詳細にそのことが述べられています。その著書が本市に三百余冊も寄贈いただいており、毎年の津田賞作品募集の入選者の小、中学生に副賞として授与してきています。

今回ご寄贈の資料は、津田博士の夫人津ねさんが亡くなられた後、受け継がれた博士の遺品(愛読書、旧制中等学校教師の辞令、東京専門学校(卒業)証書、



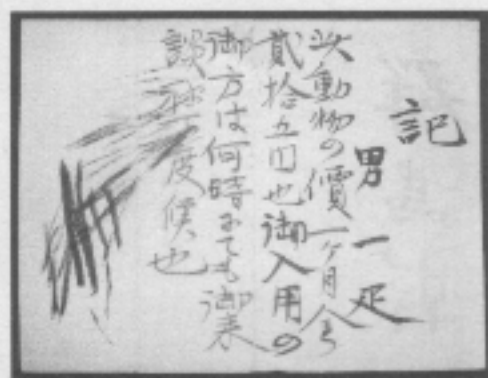
左：佐合隆治会長、右：鈴木瑞枝先生

坪内逍遙はじめ文人らのはがき、手紙）それに原稿用紙三百四十八点等中には博士が昭和二十三年に帰郷された折、郷土の人の質問に答える意味で書かれた（子どもの時の思い出）の原稿等、鈴木家にとっては家宝として大切に保存してこられた品々をそっくり、本市の市民ミュージアムの展示にとり寄贈いただきました。本市にとってはこの上もない貴重な品々で津田博士の師、坪内逍遙の資料と共に永遠に保存され市民に公開の予定です。

（副会長 大澤 功）

津田左右吉資料寄付

昨年夏に、津田博士が名付け親でもある鈴木瑞枝さんから、遺品六十七点と原稿や草稿等三四八枚が美濃加茂市に寄贈されました。これらの遺品は、今年開館予定の文化の森に建設される市民ミュージアムの津田左右吉博士コーナーに展示される予定です。寄贈された遺品は東京専門学校（現慶応義塾）の卒業証書、愛用品、坪内逍遙・会津八一・柳田国男などからの手紙などで、津田博士を研究する上でとても貴重なものばかりです。中でも、群馬県尋常中学校時代の月俸に落書きされたものは、当時の心情を吐露したものでとても貴重です。輝かしい業績の影で当時の博士の苦悩を浮き彫りにしたものです。また、故郷下米田について書かれた「子どもの時のおもひで」の原稿（夫人津田津ねさんの浄書と推測）も含まれており、博士の故郷に対する思いが伝わってきます。



月俸

今回の寄贈者である鈴木さんは「私は、津田博士が亡くなってからしばらくの間、武蔵野市境の津田博士の住居で生活していました。逆に、私の実家で津田博士の夫人津ねさんが私の母と生活しておりました。その時に武蔵野市境の住居でこれらの遺品を見つければ、津ね夫人の許しを得て頂いたものです。」

今回津田博士の郷里である美濃加茂市に市民ミュージアムができると聞いて、遺品を丁寧に扱っていただき、末永く津田博士の業績を語っていただくために、また、私一代で遺品が散逸することも考えられるので寄付することになりました。」

とお話下さいました。顕彰会では、鈴木さんのご厚意に対し、敬意を表するため、感謝状を贈ることになりました。東京のご自宅へ訪問し、顕彰会長が感謝状と記念品（写真アルバム）を贈りました。

津田生家と

下米田小学校の活用

津田左右吉博士の生家が平成12年度中に小学校に隣接する地に移築される。小学校と津田先生との絆がさらに深まることとなる。小学校には津田博士関係の資料が次の様に収集されている。

- 一、津田先生の書「無」肖像画、写真（五枚）



下米田小学校 学習発表会

- 一、津田先生の学籍簿
- 一、津田文庫（二〇六冊）
- 一、津田先生の胸像

小学校では、津田先生に関する学習会を毎年行っている。

- 一、津田博士の学習会実施
小6対象に歴史学習（郷土の偉人に学ぶ—津田顕彰会に講師依頼）PTA・家庭教育学級生対象に津田先生と下米田地区との関わり（津田顕彰会に講師依頼）

- 一、下米田小学校学習発表会実施
（本年度のプログラム紹介
実施日：平成十一年十月十六日
出）全校児童とPTA参加）

・僕の夢、私の夢発表会

5年生 佐合郁美

池戸静香

6年生 木下万理子

佐合知子

津田左右吉 生家保存



津田生家の移築予定地（工事中）

・津田先生にかかわる
「天才クイズ」

・6年生全員による合唱「暮春」発表会（ビデオあります。貸し出しします）

移築後、小学校では次のような活用例を考えている。

- 一、生家の一間を教室として、津田先生にかかわる社会科・道徳等の授業として活用したい。（講師として顕彰会や地域の人をお招きする）

一、小学校の津田先生にかかわる学習発表会展示場として活用したい。ビデオ・写真など、各年度の取り組みの様子を記録に残し展示していく。

一、津田生家を利用して文化交流活動を進めていきたい。

・写生大会などを実施し、絵画の展示

・俳句などの学習会、発表会での活用

・お茶、お花の交流学習活動での活用

- 一、保護者を含めた親子ボランティア活動の実施。生家の内外の清掃、花壇などの手入れ、草取りなど。

津田先生の生き方に学びながら、地域文化の向上、交流の場として小学校でも活用していきたいと考えているところである。
（下米田小学校長 林 伍彦）

美濃加茂市では、津田左右吉博士の生家を保存する予定で、昨年解体し、現在保管しています。

解体した結果、津田博士の生家の全体の構造が明らかになりました。家の建築した年代やその後修理した年代もほぼ確認することができました。

保存する生家は、小学校の東の一角に移築し、建築される予定です。完成後は、津田博士の業績を紹介する展示コーナーばかりでなく、地域の集会等で利用することができるよう施設に生まれ変わります。また、小学校にも開放し、各種の行事や授業ができるようになる予定です。

第15回 津田左右吉賞授賞式と記念講演会

「ゆめ」と題して募集された津田左右吉賞の授賞式と記念講演会が、平成十一年十一月十三日(土)午後二時から美濃加茂市中央公民館で開催されました。自分のゆめに対するはつきりした主張が感じられるすばらしい作品が多くありました。その中から最優秀賞に選ばれた受賞者の作文発表が行われました。

小学校の部

最優秀賞

静里小 5年 松野 光輝
「ぼくの夢は世界一の剣道選手」



津田賞入賞者 記念撮影

優秀賞

三和小 6年 天池 冬揮
「ぼくの夢」
山手小 5年 荒木 智生
「ぼくの夢にむかって」
蜂屋小 6年 室谷 ゆき
「あこがれの人」

佳作

山手小 5年 板津 由季
「あこがれの夢」
蜂屋小 6年 神戸 和志
「夢に向かって!」
各務小 6年 五島 麻結
「私の夢」
静里小 5年 戸田 千尋
「私の将来の夢」
静里小 5年 戸田 有紀
「私の夢」
下米田小 6年 鳥丸 泰代
「私の夢」
蜂屋小 6年 藤井 裕子
「私の将来の夢」
山手小 5年 細川 瑛子
「かんご婦さんは、私の夢」
蜂屋小 5年 堀部 久嗣
「ぼくの夢」
蜂屋小 6年 堀部 将史
「夢は獣医」

中学校の部

最優秀賞

東可児中 3年 経塚智志子
「成長に気がついたから」

優秀賞

平和中 2年 五座 朋子
「みんなで作る生徒会」
西可児中 2年 桜 静香
「自分らしく」

佳作

北方中 3年 岩原 輝幸
「僕の夢」
鶴沼中 2年 日下部由佳
「私の夢と高校野球」
西可児中 3年 交告 千明
「私のユメ」
広陵中 3年 澤野 智美
「ゆめ」
西可児中 3年 鈴木 有香
「職場体験を通して」
双葉中 2年 多治見 桂
「職場体験を通して」
東可児中 2年 中田 絢子
「夢のお手本」
明智中 2年 山田 梢太
「僕の夢」

発表の後、児童文学者の斎藤惇夫さんの記念講演会が行われました。斎藤さんは一九四〇年に長岡市で生まれ、立教大学卒業後、福音館書店に勤務される傍ら「グリックの冒険」などの童話を手がける児童文学者として活躍されています。当日は、児童生徒を対象に、やわらかい語り口でユーモアを交えながら講演をされました。斎藤さんは、子どもの頃自然に恵まれた環境に育った経験から「遊ぶ」ということがいかにその後の人生にとって大切であるかを述べられました。遊びの中から自分の夢を意識するよう

になってきたそうです。野球、水泳の選手、獣医さんなど、そのころの興味関心によって夢も変わってきたそうです。「発表した作文」で抱いた夢を大切にしたいと述べられました。

また、外で遊べなかつたとき、家族から本を読んでもらった経験、自分で主人公になりきって夢中になって読んだ経験から、本のすばらしさ、読書のすばらしさを次の様に語られました。

・本を読むことは心の中に経験を積むことである。
・本の中で別の体験をすること
・新たな自分を発見する事ができる。
・自分の知らない未知の世界や行ったことのない国へ行くことができる。

そして、最後に、斎藤さんは児童生徒のみなさんへ、子ども頃楽しくやったこと、遊んだこと、持続してきたことを大切に持ち続けると共に、尊敬できる人と早く出会って自分を成長させて欲しいとメッセージを送られました。



津田賞記念講演会 講師：斎藤惇夫さん

早稲田大学ゼミ生の 研修視察

平成十一年十月一〜三日の三日間にわたって、美濃加茂市に早稲田大学新川登亀男教授のゼミ生約十五人が来訪しました。新進気鋭の若手研究者を中心に日本古代史を専攻する彼らは、ゼミで古代の戸籍について研究を進めており、今回は実際に大宝二(七〇二)年の半布里戸籍故地(現在の富加町羽生付近)の周辺を調査したいとのことでした。

これにあわせて、以前に下米田小学校の津田文庫について調査をした岐阜大学の早川万年助教授の案内のもと、津田左右吉の母校である下米田小学校とその生家の訪問が実現しました。津田博士の批判的研究方法は必ず触れられます。また、早稲田大学と津田博士との関係もあつて、以前より人物としても関心を抱いていたそうです。今回実際に津田文庫を訪問して、津田左右吉の自筆等を確認し、貴重な機会を得たと喜んでみました。なお、この後一行は市内の古代関係遺跡や寺院・神社、半布里戸籍故地などを探訪して帰途につきました。実り多い成果がありますこと、当会としても期待しています。